

同 志 社 大 学

2015 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 2月15日提出

所 属	職 名	氏 名
政策学部	助手	橋本圭多
研 究 題 目	公共部門における評価の多元化に関する国際比較	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究では、公共部門において行われている多様な評価活動に着目し、比較の視点から分析を行った。</p> <p>たとえば、地方自治体における男女共同参画センター運營業務の民間委託は、公共領域へ多様な担い手が参画する契機となった。自治体は自らの業務を外部へ切り離すことで行政本体をスリム化することができ、他方で業務を受託する側は自らの裁量をもって業務改善やコスト削減を追求する誘因を有しているため、効率的な行政を達成することが期待されたのである。業務を切り離した自治体が、業務を受託した事業者を監視するためのツールとして、評価は用いられるようになった。さらに、この業務受託者は自治体のさまざまな部門から統制を受ける傾向にあり、これらの多面的な統制活動の多くが「評価」としてラベル付けされることになった。</p> <p>「評価」と呼ばれる活動は、実際には「監査」や「マネジメント」など類似する活動の一環として行われている。理論上は区別されるこれらの概念が、評価が統制のツールとして用いられることで実際には混同されているのである。今年度は、OECD 諸国における政策評価および公監査について書かれた研究論文のレビューを行い、これら議論の一般化を試みた。また、日本の地方自治体における男女共同参画政策、および政府間関係における沖縄政策を事例に、評価を通じた統制の実態について実証的な分析を行った。今年度の主な研究業績は以下の通りである。</p> <p>(2015 年度の主な研究業績)</p> <p>「男女共同参画政策におけるパフォーマンス評価の課題—地方自治体における施設評価と行政評価」内藤和美、山谷清志編『男女共同参画政策—行政評価と施設評価』晃洋書房、2015 年 4 月</p> <p>「評価と監査の理論上の区別」日本評価学会春季第 12 回全国大会報告、2015 年 5 月</p> <p>「業績監査研究の現状と課題」日本公共政策学会第 8 回関西支部研究大会報告、2015 年 9 月</p> <p>「沖縄における行政評価の特殊性—沖縄振興予算の事後評価」日本評価学会第 16 回全国大会報告、2015 年 12 月</p> <p>「民主主義志向型評価の理論と展開—参加型評価による市民教育の可能性」2015 年度日本協働政策学会大会報告、2015 年 12 月</p> <p>「参加型評価の理論と実際」『同志社政策科学院生論集』第 5 巻、2016 年 2 月刊行予定</p>	